

農業



平成29年8月号
会誌 No. 1628

目次

巻頭言

農の文化, ワラの文化……………友田 清彦 3

論 壇

北海道における農業分野の産学連携支援について……………八戸三千男 4

春期中央農事講演会

野菜の消費・流通の変化と生産の動向及び今後の展開……………藤島 廣二 6
質疑応答…………… 17

表彰農家訪問

ビワの安定経営の実現と地域農業振興……………福元 將志 22
-穂積昭治氏を千葉県南房総市に訪ねて-

研究の最前線

機能性の高い米加工食品の開発……………大坪 研一 32

農業・農村の現場から

古株牧場と乳製品販売店「湖華舞」……………中村 貴子 41
-つなぐのは女性3人のパワー-

世界の農業は今

米国農務省における穀物等需給及び貿易の中期の見通し……小泉 達治 46

私の経営と志

それでも、山に木を植える……上久保 淳一 52

農政情報

大日本農会だより…… 55

編集部から…… 56

ミニ情報

農林水産物・食品の輸出額の国・地域別内訳（平成28年）…… 31

表紙写真説明

小麦の収穫（北海道河西郡芽室町^{かさいぐん めむろちょう}）

国産小麦の約4分の1を生産する北海道十勝。その中西部に位置する芽室町では、約6千haの農地で日本めん用品種「きたほなみ」やパン用品種「ゆめちから」など数種類の小麦が栽培されている。前年9月に播種された小麦は、厳しい冬の間、雪の下でじっくりと養分を蓄え、春の雪解けとともに一気に生長する。そして、大きく実った穂が黄金色に染まる7月下旬になると、十勝の夏の風物詩ともいえる小麦の収穫作業がスタートする。

収穫時の小麦は雨に当たると品質が極端に劣化するため、収穫期間中は適期を逃さぬよう地域の生産者で利用する大型コンバインが昼夜を問わず稼働する。近年、芽室町では衛星画像を使って収穫適期を判定する小麦収穫適期支援システムや、収量・水分・タンパクをリアルタイムに把握する収量センサー搭載コンバインなど最新技術を取り入れながら、小麦の高品質生産に取り組んでいる。

（写真：芽室町 粟野農場 粟野 秀明，文：（国研法）農研機構北海道農業研究センター 若林 勝史）